

「生き生き」ってなんだろう

現役の今、もっと人生を楽しもう

老後2千万円問題が話題になって、公的年金の支給額が4割減るなんてことがまことしやかに言われています。シニアライフに暗雲が立ち込めて、不安ばかりが大きくなっている気がします。私も47歳になりまして、どうも私たちあたりが一番割に合わない世代になる気配です。

定年後のお金のことは気になるし、大事ですよ。社会的にも定年後も生き生き暮らそうという風潮があって、働いて稼ぐというのも選択の一つです。

定年したらあれこれ始めるぞという声を、先輩や上司から聞きませんか。私が気になるのは「生き生き」というところ。経済的に不安があればもちろん稼ぐことが強い意欲になるでしょう。一方で、お金はあってもやりたいことがなかったらどうでしょうね。

やりたいことや好きなことを持っている人は、すでに現役時代から楽しんでいけるもの。経済的な余裕とはまったく関係なくて、大切なのは自分です。

私たちの世代はどうでしょう。40、50代のみなさんは仕事や趣味を楽しんでいますか。

ある先輩の話。アメリカを長く放浪した末に、30歳を過ぎて落語家になりました。周囲には年齢を心配する声があったそうですが、こう笑い飛ばしたとか。

「いい歳をしてみっともない、失敗したらどうするんだと言うのは日本人だけ。アメリカではチャレンジすることこそが賞賛されるんだ。年齢なんて関係ない」

幸いなことに落語家には、定年という区切り線はありません。あるのは芸に対する評価です。60代で名人と呼ばれる人はそうはいませんが、70歳を超えても同じことで、名人、大御所は磨かれた芸に対する尊敬や憧れの称号です。人の人生や生き方は自然と顔に出るもの。私は、芸ににじみ出る落語家でありたいです。

彩の国シニア応援大使になって3年目。定年後も生き生き働く、働きたいという多くのシニアに出会いました。共通しているのは、生き生きの理由は「定年したから」ではないこと。若いうちからしっかり楽しんでいきました。

今、人生を楽しめていなければ、生き生きシニアライフはないってことですよ、皆さん!



三遊亭鬼丸 (さんゆうてい・おにまる)

1972年生まれ。長野県出身、さいたま市在住。彩の国シニア応援大使。故三遊亭圓歌に弟子入り、97年に初高座。2009年、NHK新人演芸大賞入選。10年、真打に昇進して「鬼丸」を襲名しました。FM NACK5「GOGOMONZ(ごごもんず)」に出演中です。